



一貫コース通信

せっかく身に着いた習慣を、失わないように心掛けよう

コロナ禍の嵐は一向に収まる気配を感じさせない。ゴールデンウィーク(GW)だと言うのに、こころの中は楽しみに向かうのではなく、むしろ感染拡大に対し戦々恐々と言うのが正直な所だろう。かく言う私も全く同感である。しかし、元々がGWとて、日常の延長と言う捉え方しかないの、特別にこう在らねばならない等とは思ってはいなかった。むしろ、この『通信』を認める様になってからは、4月からこの間に、やっと身につかかけた規則正しい学習習慣を失う事の危機を訴えて来た次第である。生徒諸君にモノ申す。“せっかく身に着いた学習習慣を大切にしよう”。無くさないように注意しようね!!

ところで、“良い習慣は第二の才能である”とは、良く言ったものである。また、実際に目的を持って努力し結果的に成功した先人の多くは、これに近い事を必ず口にしてはいる。所謂、努力に因って身に着いた習慣の大切さを。誰も皆、ただの人から始まるので、自堕落、惰性まみれの日常からの脱却を経験する。この時に、悶絶の苦しみを伴うのが普通の事だ。新たな習慣作りには必ず地道な繰り返し(Repeat)が必要で、この過程(Process)が努力なのだ考える。換言すると、自分の弱さに勝てなければ、社会の勝者には絶対になれない。

戻るが、GWは何と罪深い時間なのだろう。大学生や一般社会人なら兎も角、殊、基本的学習習慣の確立期にある青少年に取っては、身が引き裂かれそうに感じる事もあるだろう。特に、年齢を考えると、まだ自立出来て居ない時期に在るので、自由(遊び)と精進(勉強)との板挟みと言う、二律背反の選択が迫られるからだ。遊びの誘惑は蜜の様に甘い。半面、努力は生米を反芻するに等しい。どちらが楽しいかは推して知るべし…なのだ。

“鶏と卵”の後先論ではないが、能動的な習慣を身に着けるには、何等かの目標が必要である。なぜなら、目標も無いのに精進できるほど、ヒトは良くは出来て居ないからだ。ちなみに自分の事を棚に上げて言えば、大学進学が無かったら絶対に勉強を真面目にやっていた。私事など、取るに足らないが、周囲を見ても、有名スポーツ選手や高名な学者にしても、自己の資質の向上以前に、ある時点で目標を持った事は間違いない。どうせやるなら頂点を目指すとか、一秒でも早くとか…である。また、今までに無かったモノの創造と言うのも在りだ。兎も角、想像や創造は大脳皮質を拡大させた人類の真骨頂の領域だが、一人のヒトが決意し新たな日常を作り出すためには、動機として何某かの目標が必要な筈である。例え、それが与えられた目標でも、無目的より良いではないか…と断言したい。

昨今、良く聞かれる言葉に“親がレールを敷く”があるが、私は、この事態を肯定こそすれ、否定しない。なぜなら所詮子供は未熟で、社会の仕組みや将来の見通しを知るべくも無いからである。いわんや、現実の文明社会に必要な基礎・基本と言え、必ず学力に行き着くのは明白だ。これを踏まえ、新学期になってここまで積み上げて来た努力を水泡に帰す事の無いように注意しよう。いいですか、GWも、いつもの毎日を送るのです!

